

アグロバクテリウムスクシノグリカン

1. 食品添加物名

アグロバクテリウムスクシノグリカン（アグロバクテリウムの培養液から得られた、スクシノグリカンの主成分とするものをいう。）

2. 基原、製法、本質

細菌（*Agrobacterium tumefaciens*）の培養液より、分離して得られた多糖類である。主成分はスクシノグリカンである。

3. 主な用途

増粘安定剤

4. 安全性試験成績の概要

（1）反復投与試験

F344ラットに被験物質0.5、1.5、5%の濃度で飼料に混入し、90日間反復投与試験を行った。その結果、動物の死亡は認められず、一般状態、摂餌量及び体重に有意な変化は認められなかった。

血液学的、血液生化学的検査ならびに病理学的に本添加物の摂取に基づく有意な影響は認められなかった。

以上の結果より、本剤の無毒性量は雌雄とも5%（3.64g/kg）と考えられる。¹⁾

（2）遺伝毒性試験

ネズミチフス菌（*Salmonella typhimurium* TA98、TA100、TA1535、TA1537、WP2uvrA/pKM101）を用いた復帰突然変異試験は、5000 μ g/plate まで試験されており、代謝活性化の有無にかかわらず陰性であった。²⁾

哺乳類培養細胞（CHL/IU）を用いて、5.0mg/mL（生理的限界濃度）まで染色体異常試験を行った結果、いずれの処理条件下においても染色体異常の誘発は認められなかった。³⁾

マウス（ICR系雄）の骨髄を用いた小核試験は、限界用量である2000mg/kg \times 2まで試験されており、いずれの用量においても小核の誘発は認められなかった。⁴⁾

（引用文献）

1. 原田昌興：神奈川県立がんセンター臨床研究所

2. 本間正充：厚生科学研究費補助金、国立医薬品食品衛生研究所変異遺伝部

3及び4. 田中憲穂：厚生科学研究費補助金、財団法人食品薬品安全センター